

『マーベリック』  
-Maverick-

(1994年公開) ※DVDレンタル・販売あり

史上最大ポーカー大会の参加費を稼ぎながらの珍道中  
狙うは優勝! 賞金50万ドルは誰の手に?!『ロレレル・ベル』号  
ミシシッピ川の蒸気船

アメリカで1957年から4年半に渡って人気を博したテレビ西部劇シリーズがある。それまでのテレビ西部劇のスタイルを破った軽妙なストーリーが受けて、主人公フレット・マーベリックを演じたジェームズ・ガーナーの出世作になった作品だ。タイトルは「マーベリック」。32年の時を経て、ブレット・マーベリックをメル・ギブソン、ヒロインを当時29歳のジョディ・フォスター、保安官をジェームズ・ガーナーが演じる、リメイク映画版として蘇り、話題となった。

映画の舞台もテレビシリーズと同じ19世紀、西部開拓時代のアメリカ。ミシシッピ川に浮かぶ外輪式蒸気船

のは、あの目つきの悪い男エンジェルと、その一味だった……。

蒸気船の就航が  
ミシシッピ川を変えた

ミシシッピ川は、北アメリカ大陸を流れる河川の一つ。ミネソタ州を源流とし、メキシコ湾へと注いでいる。全長は3779キロ、アメリカ合衆国で一番長い川であり、その名はネイティブ・アメリカンの言葉で「偉大な川」に由来する。

ミシシッピ川は高低差が少なく、ほぼ南北に真っ直ぐ流れるので、流れが強い。そのため、平底船などの簡易な船を上流で作り、下流まで荷物を運搬したあと、荷物を売却し、船も解体して材木にして売却するという片道利用が長い間主流だった。

ミシシッピ川の活用が格段に拡大したのは、蒸気船の開発以降のこと。1811年、蒸気船「ニューオーリンズ」号が、オハイオ川からミシシッピ川へと就航する。推進器として水車型装置を使う外輪式蒸気船は、大



マーベリック(メル・ギブソン)が出会ったアナベル(ジョディ・フォスター)は、同じポーカー大会出場を目指すライバルであり、女スリでもあった。

(イラスト: 吉崎 英二郎)

型で重量があり構造上横波に弱い。しかし、大型になる分だけ荷物を多く載せられ、荷物の積み運びするスペースも広く取れたので、物流には好都合だった。重量はあるが、喫水(船が水に沈む深さ)が浅いので川岸により近くまで寄ることもできた。しかも、海と違って川は波の影響を受けないので横揺れの心配もほとんどいらない。川を上流へも下流へも自由自在に運行できるので、帰りは利益で購入した荷物を運ぶことができる。ミシシッピ川を外輪式蒸

気船が運行する姿は、アメリカ発展史における象徴的存在になった。

一攫千金を夢見た  
リバーボート・カジノ

同じ頃、ミシシッピ川を中心に急激に発展したものがあつた。それが「ポーカー」だ。フランス人入植者が持ち込んだポーカーは、冒険と自由を愛するアメリカ人たちにすぐに受け入れられた。裕福な商人や農地主は大金を持って川船に乗り、産地

と市場を行き来しながら社交の場の「嗜み」としてポーカーを楽しんでいたのだ。

「船という孤立した閉鎖空間でのギャンブルなら、周辺環境にも地域社会にも影響はないだろう」という理由により、リバーボート・カジノが誕生すると、ギャンブラーたちが桁外れな金額を稼ぐ姿は、一攫千金を夢見る開拓民たちの野心に火をつけた。最盛期の1850年頃にはミシシッピ川だけでも、2000艘ものリバーボート・カジノが営業していたという。1854年にはミシシッピ川を渡る橋が整備され、さらに1856年に鉄道が整備されると、蒸気船とともにもリバーボート・カジノは徐々に廃れていった。

現在も、リバーボート・カジノは存在している。アメリカで最初に認可されたのは、1991年のアイオワ州と歴史は意外にも浅い。その後の法律の改定によって航行の必要がなくなり、係留されたままになったものや最初から航行能力がなく単に浮上しているだけのものも多い。ルイジアナ州には、蒸気船風の船型にしなければならない、という規則も存在する。

カジノを楽しむなら  
外国籍クルーズ

ご存知のように、日本ではカジノは禁じられている。しかし、国内法が及ばない公海(いづれの国の領海・排他的経済水域にも含まれない海洋)上では、カジノが合法である国籍のクルーズ船は営業できる。例えば、前紹介した映画「謎解きはディナーのあとで」で登場した「スーパースター・ヴァーゴ」号は、香港のクルーズ会社が運営する客船で、作中では身代金を稼ぐためのカジノシーンがあつた。

外国籍クルーズ船でのカジノは、もちろん本場のカジノと同じ遊び方ができるのだが、大きく違うのは、クルーズ船のカジノは初心者が安心して楽しめるようになってきていることだろう。フロアにいるほとんどの人が「せっつかくだから旅の思い出に」「ちょっと運試し」でカジノ体験しようと思つている人たちだからだ。

レート(1回のゲームに賭ける最低賭け金)は、地上カジノの半分以下と、かなり低く設定されている。ちなみに、プリンセス・クルーズはテーブルゲームが5USドルから、

スロットマシンは1USセントから。ゲームの進行役ディーラーは、少ないレートでも初心者でも嫌な顔一つすることなく懇切丁寧に教えてくれるし、昼間のカルチャー教室でカジノ教室が開催しているところもある。日本語がわかるディーラーを乗せた船も増えているようだ。

また、「お金を騙し取ろう」というペテン師や悪人がいる可能性はクルーズ船のカジノに極めて低いと言われている。何故なら、乗船時に全員がパスポートチェックを受け、身元が知られている上に、船という限られた空間にいて、それ自体が犯罪の抑止になっているのだ。本場のカジノのように一攫千金を狙ってギラギラしているお客さんもクルーズ船にはほほいさない、と大体は考えていいだろうが、でも中には「カジノ目的」の乗客もいることはいる。1日の掛け金の上限を決め、船内カジノでのトラブル防止に努めている船も増えている。

最後に、外国籍クルーズ船にとってカジノは大きな収益の柱の一つだということをお忘れしないで欲しい。カジノで本場に勝つのは、カジノなのである。(クルーズ映画ライター あいさわみき)

